

研究プロジェクト・論文

女子大学 HP 学長メッセージに見る、
女子大学とジェンダー

森 山 由 紀 子

学芸学部・情報メディア学科

1. はじめに

1947年3月に公布された教育基本法第5条の、「男女は互に敬重し、教育上男女の共学は認められなければならない」という条文によって、男女共学の制度が規定されて56年、2003年度の女子の大学進学率は34.4%となった¹。男子の47.8%に比べると、まだまだその7割程度にとどまっているものの、今後、学生数そのものが減少していくことが予想される中で、女子大学が担ってきたいくつかの役割のうち、少なくとも入学定員という数量的な面において、女子が高等教育を受ける機会を拡大するという単純な役割は、今後徐々に不要なものとなっていくことが予想される。ここ数年の間、女子大学があいついで共学化されている背景にも、学生数の需要と供給のバランスの面で、女子にのみ門戸を開くことが経営的に不利になるという側面があると考えられる。

そういった情勢の中で、今なお「女子大学」であり続けようとしている大学は、「女子大学」であるという、大学としての個性の意義をどのように認識し、また、それぞれの大学に入学する「女子学生」に対して、具体的にどういった教育を行おうとしているのであろうか。

そこで、本稿では、各女子大学の公式ホームページの「学長メッセージ」（または、それに

相当する文面）において、「女子大学の存在意義・社会的使命」「女子大学における教育目標」「現代社会における女性」といった問題が、どのように語られているかということを調査した。

大学の公式ホームページを対象としたのは、基本的に受験生とその保護者のみが手にすることを想定して作成された「大学案内」などとは異なり、大学の公式ホームページは、より広く社会に向けて発信された、いわば大学の「顔」とも言うべき性質を持っているということによる。また、「学長メッセージ」を取り上げたのは、実質的にはコピーライター等が作成していることが想定されるキャッチコピー等に比して、はっきりと、大学を代表する人物の発言として位置づけられることによる。

もちろん、「学長メッセージ」が書かれるスタンスは様々であり、非常に短い「ご挨拶」となっているものから、大学の改革の方向性を事細かく述べるもの、或いは受験生勧誘のメッセージとなっているものなど、極めて幅広い。従って、それぞれのメッセージが、すべてその大学の女子教育についての考え方を表していると考え断じてできない。しかし、それぞれを比較したり、その文面から大学の中身までを推定したりすることを目的とするのではなく、「女子大学の学長メッセージ」というものを総体的にとらえ、それぞれの文章において語られていることを俯瞰することによって、今日の日本において、女性の高等教育に責任ある立場で携わる大学人の、「女子大学」「女性の教

References to Gender in the Homepage Messages of Women's University Presidents

育」「現代社会における女性」といったものに対する考え方の典型例を見出すことができるのではないかと考える。

「平成16年度学校基本調査の概要」(文部科学省)によれば、2004年5月1日現在の、わが国の大学数は709校(国立87校、公立80校、私立542校)である。このうち、国立2校、公立5校が女子大学である。私立大学については年度による増減が激しく、その実数を確定するのは容易ではないが、『2004年版全国学校総覧』に掲載されている私立大学524校のうち、70校が、2004年12月現在、「女子大学²⁾」であり、なおかつ少なくともホームページ上では共学化を予告していない大学として数えられる。このうち、ホームページ上に、「学長³⁾メッセージ」に相当するコンテンツを見出し得た、国立2校・公立5校・私立62校⁴⁾、計69校を取り上げる。

以下、

- ① 女子大学が果たしてきた役割
- ② 現代社会と女性
- ③ 現代の女子大学の使命・教育目標
- ④ 女子大学の存在意義

という、四つの観点に沿って検討する。

2. 今までに果たしてきた役割

まず、「女子大学」が今までに果たしてきた役割についての見解が述べられている部分を抜き出してみたい。

女性の進学できる高等教育機関が限られていた時代に創設された大学には、次のように、それぞれの地域における「女子教育の拠点」となっていたという自負が述べられている。

- ・ 我が国における女性の最高教育機関(奈良女子大学)
- ・ 西日本における女子高等教育の拠点校(県立広島女子大学)
- ・ 女子高等教育のパイオニア(日本女子大学)
- ・ 四国における女子教育のパイオニア(松山東雲女子大学)

女性の教育環境を整えることの目標となるのが、「女性の社会的地位の向上」である。

- ・ 日本女性の社会的地位の低さを憂い、自宅を教室とした私塾を1888年に開き(金城学院大学)
- ・ 高い実績と伝統を築き、女性の社会的地位の向上に大きく貢献してきました。(公立女子大学)
- ・ そもそも女子大学とは、明治以降、女性の地位について啓蒙し、女性が社会的に活躍するために必要な専門技術や教養を身につける場として存在してきました。本学でも…(中略)…つねに女性の地位向上に尽くしてきました。(文化女子大学)
- ・ 一貫して仏教精神にもとづく心の教育をめざし、女性の地位の向上と活動の拡大を求めて努めてきました。(京都女子大学学長)

「女性の地位向上」は、すなわち、「男女平等」「民主主義の実現」をめざすものである。

- ・ “女子を人間として”教育することを目標の第一にかかげたことは、まさに今日の民主教育の先駆けをなす(日本女子大学理事長 後藤祥子)
- ・ 「女性の自らの努力による男女平等の実現」を謳い(名古屋女子大学)

これをさらに踏み込んで、旧弊な社会や考え方からの「開放・脱却」と表現したところもある。

- ・ 近代化する日本にふさわしい、新しいタイプの女性を育てたいと考えて、キリスト教主義に立つ学園を創立しました。信仰も知性も、人を家や人種や階級や性別から開放し自由にするからです。家や国家にひたすら従属する従順な女性という古い女性像から脱却して、信仰によって自立し、愛の心をもって進んで人に仕え、世界に尽くすことのできる新しい型の女性像を目指しています。(恵泉女学園大学)

さて、その具体的な教育の目的としては、当

然、「女性の能力の向上」が謳われるが、その「能力」の中身としては、まず、所謂「教養」や「知性」を重視するものがあるが、「教養」だけという大学は少ない。

まず、「教養」と「人格」を挙げるものがある。

- ・ 知と徳を備えた優れた女性を教育する（東京純心女子大学）
- ・ 女性の科学的教養の向上と人格的性情の涵養」（鎌倉女子大学）

また、「教養」に加えて、「社会で役立つ技能」の習得を挙げるものがある。

- ・ 品性高く教養に富み、しかも社会で即戦力となる知識、技能（清泉女学院大学）
- ・ 高い教養と職能（名古屋女子大学）
- ・ 実社会に役立つことを目標に実践力を養い（実践女子大学）
- ・ 良き社会人の育成と実際の専門教育に重きを置く（県立広島女子大学）
- ・ 幅広い教養と高度な専門能力（岐阜女子大学）

「専門性や技能」に重点を置く記述としては、次のようなものがある。

- ・ 女性に専門的知識と高度の技能を修得させ、女性の自主性と社会的自立の育成を目的として（共立女子大学）

また、「人格教育」に重点を置くものとしては、次のようなものがある。

- ・ キリスト教を基盤とした人格教育（東京女子大学）
- ・ 「人間教育」を原点とした教育を行ってきました。本来の学問とは人間を学ぶということであり、それは「本当の自分とは何か？」と問いかけることから始まります。（椋山女学園大学）
- ・ 一貫して仏教精神にもとづく心の教育をめざし（京都女子大）
- ・ “心を育て 人を育てる”を柱にした人間教育（広島文教女子大学）

また、設立以来の当該女子大学の役割を、「社会への貢献」という視点から捉える考え方

も多く見られる。この中には、職業人として「社会」の中で何らかの活動を行うことをさしているように思えるものから、より広く、家庭や地域社会を含めた、広い意味での「社会」において、それぞれの役割を果たすことをも含めて述べているものまで、幅広い。

- ・ 数多くの卒業生が各地の幅広い分野ですばらしい業績を挙げており、その社会的な貢献は国内外から高い評価を受けています。（高知女子大学長）
- ・ 国内外の社会・文化の発展に貢献できる自立した人間の育成（県立広島女子大学）
- ・ 地域社会はもとより広く社会に貢献する有為の人材を輩出（九州女子大学）
- ・ 数々のすぐれた人材を世に送り出してきました。（日本女子大学）
- ・ 幅広い教養と高度な専門能力を身につけ、社会に貢献できる女性の育成をめざして（岐阜女子大学）
- ・ 社会に役立つ有為な女性を育成する（武庫川女学院大学）

以上は、どちらかと言えば前者のタイプに照準をあてたものであろう。以下の例は、その両者を含むものと思われる。

- ・ 社会で多様な活動をする有名無名の多くの優れた人材を育成してきました。（神戸女学院大学）
- ・ 人を愛し、社会の役に立つ人材を世に送ろう（東京純心女子大学）
- ・ 愛の心をもって進んで人に仕え、世界に尽くすことのできる新しい型の女性像（恵泉女学園大学）

また、次の例は、女性が学問をすることが、間接的に文化の向上に寄与すると述べている。

- ・ 女性が学問に励むことが社会的自立の道であり、ひいては文化の向上に寄与する。（名古屋女子大）

また、「社会への貢献」の中身を、明確に、「よき母親の育成」ととらえた大学もある。

- ・ 「人づくりの根幹は母親教育であり、女子教育の振興こそが、国家社会の形成者育

成の礎である」という信念のもとに、「感謝の心」を基盤として、「自覚ある女性」の育成と、「社会への奉仕」を目標として、…中略…豊かな人間性を備えた多くの女性を世に送りだしてまいりました。(川村学園女子大学)

一方、女性自身の側との関わりでは、「女性の自立」を謳うものが多い。

- ・ 国内外の社会・文化の発展に貢献できる自立した人間の育成(県立広島女子大学学長・草野敬久)
- ・ 女性の自主性と社会的自立の育成(共立女子大学)
- ・ 自立した女性を育成する高度な教育機関を開設したい(活水女子大学)
- ・ 女性の社会的自立をめざし(岐阜女子大学)
- ・ 精神的にも経済的にも自立できる女性の育成を目標にして(実践女子大学学長飯塚幸子)
- ・ 女性が学問に励むことが社会的自立の道であり、ひいては文化の向上に寄与することである…中略…「女性の自らの努力による男女平等の実現」を謳い、そのために女性が、「高い教養と職能」を身につけ、経済的に自立する必要性を訴えてきました。(名古屋女子大学)

また、「自立」に近いかもしれないが、より内面的な問題として、「自分で考える」力の涵養を挙げる大学もある。

- ・ 各自がみずからの関心に応じて勉学の目標をかかげ、「自分で考え、行動する」能力を創設以来つちかい、「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」を建学の精神としています。(日本女子大学)
- ・ 学是「自律処行」のもと、自ら建てた規範に従って行動し責任をもつ女性の育成(九州女子大学)

3. 現代社会における女性

さて、過去においてこういった役割を果たそ

うとしてきた「女子大学」であるが、社会が変化するのに対応して、「女子大学」も、その役割を変化させていかなければならない。そこで次に、「女子大学」の学長メッセージにおいて、「現代社会における女性」のあり方が、どのように捉えられているかを見ていきたい。

まず、多くのメッセージが、これからの社会を「女性の時代である」と述べているが、その観点は大きく2つに分かれる。

第一は、「女性の社会進出・男女共同参画社会」という観点である。その中にも、さらに二つの立場があり、一つはまず、次のように、男女対等の立場で社会に参画していく時代であると述べるものである。

- ・ 21世紀のいま、女性はあらゆる分野で能力を発揮し、活躍できる時代です。(日本女子大学)
- ・ 私たちが生きる21世紀は、男女共同参画社会において男女の真の共生と協力が求められています。その意味で、この世紀はまさに女性の時代であるとも言えるでしょう。(武庫川女学院大学)
- ・ 国際化・情報化・高齢化がますます進み、21世紀においても課題が山積するなかで、女性の高学歴志向や社会進出はいっそう加速しつつあり、女子教育に対する高度多様な要請は急速に高まり拡大しています。(共立女子大学)

もう一つは、同じく女性の社会参画が進むことを言っているのだが、前者のように、男女対等な社会参画を述べるのではなく、「女性に適した」活躍の場が、家庭から、外へと拡大したことによって、「女性としての」能力も変わって来たと述べるものである。

- ・ 個人や家族の日常生活のいとなみは、むかしは、ほとんどが個々人の才覚と努力によって支えられていました。しかし、20世紀後半の経済社会の発展のなかで、公共あるいは企業による施設やサービスが生活の営みを支える部分が次第に大きくなりました。そして、そうした関係の

職場をはじめ、社会への女性の進出がいちじるしくなりました。(東京家政学院大学)

- ・ 特に女性のライフスタイルは大きく変化してくる。子育てが終わってからの平均余命は、30年に及ぶ。結婚や育児で中断された人たちの再就職の機会も広がってくる。社会構造の変化に対応する大学教育の変革が求められる。明治期の女子教育は良妻賢母の育成にあった。女性たちは〈家政〉を司る義務と責任を負わされた。〈家政〉とはマネジメントにほかならない。戦前までの女性が要求されたマネジメントの場は、家庭内であった。21世紀を生きる女性たちに要求されるマネジメントは、対外的な場においてである。女子教育において今、必要なのはマネジメント能力の育成である。企画を立てる(Plan)。予算や人事管理をしながらスムーズに実施する(Do)。そして評価(See)。という一貫の流れが、マネジメント能力である。この能力はあらゆる分野に通用する。企画を立てる段階では、コンセプトが明確でなければならない。論理的思考が求められる。従来の〈思う〉から〈考える〉方向へ比重が移される。そしてそのプランが認知されるためには、プレゼンテーションができなければならない。(跡見学園女子大)

こういった見解の相違は、教育におけるジェンダー観の相違を反映するものであると言える。

また、こうした、男女共同参画社会が進んでいるとはいえ、やはり、社会における女性の立場には数多くの障壁が存在することを指摘するものもある。

- ・ さて、女性が活躍する場は近年飛躍的に拡大してきました。しかし、男性社会の見えざる障壁は相変わらず高いものがあり、女性の社会進出に伴う摩擦も増えています。(同志社女子大学)
- ・ 21世紀は女性の時代だといわれています。

いま女性の果たすべき役割はさらに多く求められております。その一方で、まだまだ世の中は女性にとって困難な面があることは否定できません。(京都女子大学)

第二は、「女性の視点を生かす」という観点である。

- ・ 人、文化、ことば、こころ、アート、いのち、暮らしといった「心のゆたかさ」「真のしあわせ」を根底におく学科構成や教育プログラムにも、現代社会が抱える問題のすべてに求められる「女性の視点」が随所に活かされています。「こころの時代」「共生の時代」が問われる今、本学は真に時代が求める女性、濃やかで勇氣ある知性的な女性を世に送りつづけたいと願っています。(駒沢女子大学)
- ・ 現在、私たちの周りには、環境問題をはじめさまざまな難問が山積しています。こうした課題について考え、解決するためには、女性としての視点がこれからますます重要になるといわれています。(同志社女子大学)
- ・ しかし人は、自然の大きさや人々の繋がりの中で、生かされ、生きています。その中で、「生」を育む女性の視点は、学問や社会活動に対してますます重要になっております。(京都女子大学)
- ・ 21世紀に入り、世界は競争の時代から共生の時代へと移り変わろうとしています。自然、人間相互、国家・民族間の共生の時代において、女性の社会参加とリーダーシップはますます重要なものとなるでしょう。(清泉女学院大学)

これらはいずれも、現代社会において生じる問題を解決するためには、「女性の視点」が必要となると述べている。では、「女性の視点」とは何かと言えば、具体的には、はっきりと述べていない同志社女子大学を除いて、傍線を施したとおり、「心のゆたかさ」「真のしあわせ」「生を育む」「(競争ではない)共生」といった

キーワードとともに用いられていることから、やはり、それぞれのジェンダー観が表れていると言えるだろう。あるいは、男性中心に構成されてきた、今までの社会へのアンチテーゼとしての期待が、「女性性」というものに託されているのかもしれない。

なお、次の一文は、何をもち「女性の世紀」とするのかが明記されていないが、現代社会を「実力優先の社会」ととらえ、「力強さ」と「女性らしいやさしさ」が必要となると述べられている。

- ・ 21世紀は「女性の世紀」です。世の中の流れも、学歴社会から実力優先の社会へと大きく変化しつつある今、女性に求められるのは、自らの進む道を自らの手で切り開く強さと、本学の建学の精神である女性らしい優しさです。(神戸女子大学)

4. 「女子大学」の使命・教育目標

さて、こういった現代社会の動向を踏まえて、現代の「女子大学」は、どうあるべきだと考えられているのだろうか。学生の教育と直接関わる部分を中心にまとめてみよう。

まず、大学の使命として、「人材の育成」が挙げられるのは当然であるが、そこでは、「新しい」「時代」といった語が頻りに用いられる。

- ・ 21世紀の新しい時代を担っていく女性の人材育成(奈良女子大)
- ・ 新しい時代に活躍できる有能な女性の育成(武庫川女学院大学)
- ・ 新しい時代を見据えつつ、冷静な判断力と決断力を兼ね備え、社会の中で責任ある行動を毅然として取り、しかも寛容の精神をもって他者を受容し、日本および世界に貢献できる女性を育てる(東京女子大学)
- ・ 新しい時代の動きを的確にとらえることができる新しい知力を養うとともに、グローバルな視野で物事を捉え、未来社会に貢献できる人材育成(大阪樟蔭女子大

学)

「新しい時代」においては、「有能さ」「決断力」「責任」「寛容」「知力」「グローバルな視野」がキーワードとして用いられている。これらの語は、以下に述べるような、「問題を切り開いていくための様々な力」や「力強さ」といった概念と通じるものがある。

- ・ 学生一人一人の個性を大切にしながら、みずから学び・考え、自己の進むべき道をみずから切り開いていく、自主独立の精神を培うこと(大阪女子大学)
- ・ 将来遭遇する様々な問題について、自分で考え、判断し、解決する能力を身につけること。(大谷女子大学)
- ・ 正しい判断力とたくましい実践力を身につけた人を育成(広島文教女子大学)
- ・ 女性の可能性をさらに高め、未来に向かって力強く歩む人間を育てます。(名古屋女子大学)
- ・ 学際的かつ国際的見地での広い視野をもった適切な判断力と創造的行動力そして他者を愛する心^をを育むこと(神戸女学院大学)
- ・ (「生」を育む女性の)視点を、学びによってより深め、実践により確かなものにし、局面を乗り越えていく力とすることが必要です。本学はそれを支援する教育の場(京都女子大学学長)
- ・ 時代の変化とニーズに対応し、直面する課題に真っ向から向き合い、幅広い視野から解決できる(園田学園女子大学)

さらに、前章で見たような、女子教育の伝統的な目標である「自立」の概念を引き継ぐ次のような記述も、上記の記述に通じるものがある。

- ・ 「生涯にわたり自立した、イキイキとした女性(園田学園女子大学)
- ・ 有能な社会人として21世紀を自律的に、自立して生きる女性の育成(跡見学園女子大学)
- ・ 男女共同参画社会の一員として「自立」して活躍し得る人材の養成(九州女子大

学)

また、男女共同参画社会や、社会変化との関わりから、「リーダーシップ（指導力）」を挙げるものもあった。

- ・ 男女共同参画社会をリードする人材の育成—女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ—（奈良女子大学）
- ・ 21世紀に活躍できる新しい女性指導者の養成（日本女子体育大学）
- ・ リーダーシップが発揮できる女性の育成（松山東雲女子大学）
- ・ 人間の理解と社会変化に正しく対処し、指導力を持つ人間を育てる（仙台白百合女子大学）

また、次の文面からは、「専門性を深める」ことが、「時代に求められる」人材の条件であると解釈できる。

- ・ 各学部では専門性を深め、時代に求められる人材を育成しています。（武庫川女学院大学）

このほかに、「時代が求める女性」として、次のような女性像を掲げる記述もあった。

- ・ 真に時代が求める女性、濃やかで勇気ある知性的な女性を世に送りつづけた（駒沢女子大学）

一方、時代の変化に対応することとは逆に、普遍的な「人間性」を涵養したり、「生き方」を考えるといった、普遍的な価値についても言及されている。まず、「人間性」については、次のようなものがある。

- ・ 「高い知性」、「善美な情操」、「高雅な徳性」を人間としての望ましい属性と考え、真、善、美の陶冶と調和を目指し（武庫川女学院大学）
- ・ 豊かな人間力を基盤に、地域や社会に貢献できる人材の育成（筑紫女学園大学）
- ・ 謙虚で優雅な人間性を育むとともに、やさしくあたたかい心で他者を思いやることのできる人を育成（広島文教女子大学）
- ・ 幅広い教養と豊かな人間性を育む全人教育を継承するとともに、カリキュラム改

革をすすめ、各学部では専門性を深め、時代に求められる人材を育成しています。

（武庫川女学院大学）

「生き方を考える」ということも、人間の普遍的なテーマである。

- ・ すなわち、教育・研究を通して真の自由人の育成を志し、社会生活を遂行する手段を供するとともに、むしろそれ以上に生きることの意義をともに追求することをもって大学の使命としています。（ノートルダム清心女子大学）
- ・ 改革のテーマを“いのちの輝きを見つめ、これからの人間を考える”と謳い、さらにより人間を考える教育・研究の方向をめざしています。（京都女子大学）
- ・ わたしたちは神戸親和女子大学、学生が自ら選択した分野の教育と研究を進めながら、同時に「自分」という存在を探し、生き方を学ぶ場所と位置づけています。（神戸親和女子大学学長 山根耕平）
- ・ どのような社会状況におかれることになっても、人としてあるべきスタンスを有した創造性のある内発的行動力ある女性の育成（同志社女子大学）

こういったテーマを、より現代的に表現したものが、「自己実現」「夢の実現」に類する次のような記述であろう。

- ・ 学ぶ意欲のあるすべての女性のために、「真摯な夢の実現の場」として存在すること（お茶の水女子大学）
- ・ 大学という学びのフィールドは、“なりたい自分になるための” 発見と成長との場。そして、自分自身のあるべき姿、生きるべき道を探すための道標でありたい（大阪樟蔭女子大学）
- ・ 一人一人が自己の使命を見出して生きることをもっとも大切だと考え（福岡女学院大学）
- ・ どんな時にも、どんな場所でも、自分の使命を見出すことのできる知恵を身につける広場です。（福岡女学院大学）

- 自分の人生について真剣に考え、それぞれに与えられた固有の使命を見出したいと考えている若者たちに、その目指すところを成就できるよう精一杯支援する（聖心女子大学）
- その人固有の花を咲かせる（恵泉女学園大学）
- 各自の能力を最大限に生かせる人間になることを何よりも大切に（白百合女子大学）

さらに、普遍的な価値を標榜するものとして、多く見られるのは、「心の教育」を重視するものである。この理念は、知的な価値と対比しつつ、それによって「知識」を生かすものとして、あるいは、どちらかと言えば「知識」より大切なものとして述べられる場合が多い。

- それ（知の継承、知の生産）以上に人間としての心の教育を大切にしています。（安田女子大学）
- 建学の精神”和”の精神の具現化・「ひとづくりの教育」であり、一方的な知識の教授ではない、心の交流が育まれる教育です。（東京聖徳学園）
- 知性や理性と同じく、あるいはそれ以上に大切な心があります。それは素直な心、他の人を思いやる心、美しいものに感動する心です。（東海女子大学）
- こうした社会の変化に対応するための、より高い専門的知識、総合的な判断力、深い教養を身につけるとともに、変化に流されない「心」を育てる（川村学園女子大学）
- その知識と技能をどのように社会で生かして行くか、またそれをもとにしてどのように社会に貢献するかを考えて行くこと、つまり「人の心を大切にする教育」（東京純心女子大学学長 田崎 清忠）
- 他の人々に対する思いやりや女性の豊かな感性を磨きあげること。（大谷女子大学学長 草場 宗春）
- 学際的かつ国際的見地での広い視野を

もった適切な判断力と創造的行動力そして他者を愛する心を育むこと（神戸女学院大学）

中でも、次のメッセージは、「専門的知識の涵養や資格取得」「職業教育」と、明確に対比することで、「社会人」「母親」となったときにその価値を実感する精神面の教育を強調している。

- 大学教育において、専門的知識の涵養や資格取得が大切であることはいうまでもありません。700校以上もある日本の大学は、規模の大小や種類の多少の違いはあっても、多かれ少なかれ同じような職業教育を行なっています。その意味では、京都ノートルダム女子大学も例外ではありません。人格の陶冶を伴わない大学教育は不完全なものといわざるを得ません。私たちは、若い女性が社会人になったとき、そして妻となり母親となったときに、自分は良い大学教育を受けたと思ってもらえるような教育をしているのです。大学教育が野放図に大衆化している今こそ、京都ノートルダム女子大学はあえて少数の精神的エリートを育成する大学であろうとしています。（京都ノートルダム女子大学）

上のメッセージが言うところの、「専門的知識の涵養や資格取得」「職業教育」にあたるのが、次にあげるような価値である。こちらについては、人格的な教育の重要性を謳う一方で、「そのみならず」という文脈で言及されるのが特徴で、「心の教育」とは車の両輪のような関係にあると言ってよいだろう。

- 教養教育・人格教育を重視する従来の姿勢は堅持しつつ、男女共同参画社会に向けて、今後は実務力の養成…中略…社会の要請に応えられる専門基礎能力の涵養と女性の社会進出の武器となる国家資格、ないしはそれに準ずる資格（資格試験受験資格を含む）の取得（金城学院大学）
- 自分の興味や適性に合った分野で知識・

技術・資格を修得すること。(大谷女子大学)

- ・福岡女学院大学のキャンパスは、学問教養や資格の取得のために切磋琢磨できる広場であるとともに、どんな時にも、どんな場所でも、自分の使命を見出すことのできる知恵を身につける広場です。(福岡女学院大学学長)
- ・いつの時代にも通用する専門性と技能を身につけた品性のある女性の育成(同志社女子大学)

さらに、ジェンダーとの関わりで見れば、次に挙げるものは、何らかの意味で「女性性」を意識したものであると考えられる。

- ・全人類の癒しの担い手となる女性の育成(金城学院大学)
- ・国際化社会に対応し得る広い教養と豊かな情懷を備えた人材育成(群馬県立女子大学)

そして、具体的な記述はないものの、「女性のための大学」であることそのものに価値を見出す文面が二つあった。

- ・人類の歴史はじまって以来の原爆を経験した、世界に向かって平和を発信する地方都市・広島に立地する、女性のための大学(広島女学院大学)
- ・女性のための、女性だけの大学です。(郡山女子大学)

さらに、「女性教育の拠点」と位置づける大学もある。

- ・教養教育から専門教育までバランスのとれた質の高い教育を提供することにより、女性教育の拠点となる(奈良女子大学長久米健次)

以上まとめると、現代の「女子大学」においては、時代の変化を敏感に捉えて、難しい局面を乗り切る力を育成し、自己の発見、自己実現を支援する。人間性や「心」の教育が何よりも大切だが、だからと言って、社会における実践的な力を養うことも軽視できない。という、大きな流れがあることを見てとることができる。

5. 女子大学の存在意義

最後に、正面から「女子大学」の存在意義について言及しているメッセージを取り上げる。「女子大学」の歴史や意義を説いて、自らが共学化しないことを宣言するのは、次のメッセージである。

- ・最近多くの女子大学が共学化の道を選んでいます。HJUは女性のみのものであり続けます。アメリカでは1960年代から、女性解放運動と連動して多くの女子大学が共学化しました。しかし1980年代になって女性大学の価値が見直されるようになりました。女性大学においては、女性のための最高の教育機会と環境を十分に整え、それによって、女性の人間としての資質だけでなく、「真に女性のみのものである資質・特徴」(truly feminine qualities)といわれるものをも最大限度開花させることができるのです。共学大学におけるように、男女に対して同一の教育機会を提供することは、男女に対して平等ではあるでしょうが、その平等性が女性にとってフェア(公正)であるとは限りません。118年の女性教育の伝統を背景にしたHJUは、女性の皆さんに潜在しているすべての能力に光を当てて目ざしています。平和への願い、語学運用能力などは、特に女性に強い特徴だと思います。また2004年10月にオープンした最新機能を満載した立派な図書館は、HJUに学ぶすべての者が我が家にくつろぐ気持ちで学ぶことのできる知的で潤いのある空間を提供しています。そして、押しつけがましくなく常時キャンパスに流れているキリスト教の精神は、人として当然もつべき高い倫理観を自然に育みます。(広島女学院大学)

すなわち、このメッセージにおいては、

- ① 女性のための教育は、「真に女性のみのものである資質・特徴」を育てることができる。

- ② 男女に対して同一の教育機会を提供することは、平等ではあっても、それが女性にとってフェア（公正）であるとは限らない。

という二点が主張されている。具体的な「女性の資質・特徴」としては、「平和への願い、語学運用能力」が、それにあたると思われるようである。

ただし、こういった「女性の特質」というものが、果たして本質的に女性だけに備わったものであるのか（逆に言えば、女性にはすべてそういった特質が備わっているのか）といったことについては、議論の必要なところであろう。

ここまではっきりした主張ではないまでも、次のメッセージも、「女性の特質」ということを意識したものであると言える。

- ・「このころの時代」「共生の時代」が問われる今、本学は真に時代が求める女性、濃やかで勇気ある知性的な女性を世に送りつけたいと願っています。（駒沢女子大学）
- ・どうか、リベラル・アーツ教育の学びのなかで、自然の仕組み、社会の仕組み、人間の生活・文化の面に関わることがらを、女性の視点から学び・研究して、自然・人・社会との調和を目指す人間にふさわしい考え方・問題解決能力を身につけてほしいと願っています。（同志社女子大学）

また、女性だけの大学であることで、共学大学では難しい、リーダーシップを養うことができるという利点を述べるものもある。

- ・大学は人生の土台をつくる場です。共学指向の現代の中で、女性が主役である女子大学においては、リーダーシップを養い、…（東京女子大学）

そして、この問題には、3章で述べた「現代社会における女性」についての認識のあり方が大きく関わっている。

- ・私たちが生きる21世紀は、男女共同参画社会において男女の真の共生と協力が求

められています。その意味で、この世紀はまさに女性の時代であるとも言えるでしょう。社会に役立つ有為な女性を育成するという武庫川学院の変わらぬ方針は、こうした時代にあってこそ一層アクチュアルな意味を持つものと私たちは考えます。（武庫川女学院大学）

とあるのは、男女共同参画が進む現代であるからこそ、有能な女性を育成することの意義が増したという議論である。では、それはなぜ、共学大学ではいけないのかという問いも生まれる。しかし、こういった問いを否定するのは、

- ・女性が活躍する場は近年飛躍的に拡大してきました。しかし、男性社会の見えざる障壁は相変わらず高いものがあり、女性の社会進出に伴う摩擦も増えています。（同志社女子大学）
- ・まだまだ世の中は女性にとって困難な面があることは否定できません。（京都女子大学）

という現状認識であろう。だからこそ、

- ・社会で活動しようとする女性を、卒業後もずっと精神面・学問面から支え、励まし続けていけるのも女子大学ならではのしょう。（同志社女子大学）

といった特性の認識が重要となる。また、男性に比べて、女性の社会進出の歴史が浅いことを鑑みれば、

- ・キャリアを築いた先輩モデルに出会いつつ、社会で生きていく力を養うチャンスに恵まれています。（東京女子大学）

という特性が、いかに重要なことであるかも首是されるであろう。

このように考えれば、確かに、やがて真の男女共同参画社会が定着した段階では、「女子大学」の存在意義は薄くなるのかもしれない。しかし、単に男女の進学率や卒業当初の就職率が同等に近づいてきたことをもって「男女共同参画社会の実現」とすることはできない。それによって新たに生じる様々な問題点や矛盾点は山積しているはずである。女子大学は、社会にお

ける女性の現状に厳しく目配りをして、見せかけの「男女平等」に惑わされることなく、女性にとって真に必要な力や環境は何なのかということに常に問い続ける必要がある。このことは同時に、長年築きあげられてきた男性中心社会の価値基準が、果たして本当に「人間中心」の価値基準であるのかという疑問を投げかけるものであり、社会の変革を促していく貴重な視点ともなる。これこそまさに現代の「女子大学」に課せられた使命だといえるのではないだろうか。

注

- 1 平成15年度版「学校基本調査」(文部科学省)
- 2 「女子大学」の選定にあたっては、『全国学校総覧』に掲載されている校名からはっきりと女子大学と認定できるもののほか個人運営のサイトと思われるが、掲載大学数については高い評価を得ている、「女子大学のホームページ (<http://www.w-univ.net/>)」のリストによって補い、さらに、紛らわしいものについては、当該大学のホームページを確認した。
- 3 理事長、学園長のみ掲載されている場合は、理事長・学園長を対象とする。
- 4 対象となる大学およびメッセージ等の書き手は以下のとおりである。(順不同)
お茶の水女子大学学長・本田和子/奈良女子大学学長・久米健次/群馬県立女子大学学長・富岡賢治/大阪女子大学学長・丸山高司/県立広島女子大学学長・草野敬久/高知女子大学学長・青山英康/福岡県立福岡女子大学学長・岡照雄/藤女子大学学長・永田淑子/仙台白百合女子大学学長・片岡照子/郡山女子大学学園長 学長・関口富左/跡見学園女子大学学長・山崎一穎/十文字学園女子大学学長・鶴木眞/川村学園女子大学学長・川村澄子/聖徳大学理事長学園長学長・川並弘昭/和洋女子大学・学長 蓮見音彦/日本女子大学理事長・後藤祥子/共立

女子大学学園長理事長/聖心女子大学学長・山縣喜代/清泉女子大学学長・塩谷惇子/学習院女子大学学長・波多野敬雄/東京女子大学学長・湊晶子/東京家政学院大学学長・田辺員人/白百合女子大学学長・大京子/津田塾大学学長・飯野正子/文化女子大学理事長学長・大沼淳/昭和女子大学学長平井聖/駒沢女子大学学長・菅原昭英/東京女学館理事長学長・麻生誠/恵泉学園大学学長・大口邦雄/実践女子大学学長・飯塚幸子/東京純心女子大学学長・田崎清忠/鎌倉女子大学理事長学園長学長・松本紀子/フェリス学院大学学長・本間慎/相模女子大学学長・中村以正/清泉女学院大学学長・東洋/岐阜女子大学学長堀幹夫・同創設者夫人・杉山悠紀子/東海女子大学学長・大森正英/金城学院大学学長・柏木哲夫/椋山学園大学学長・泉有亮/名古屋女子大学学園長・越原一郎/中京女子大学学長・谷岡郁子/京都ノートルダム女子大学学長・相良憲昭/同志社女子大学学長・森田潤司/京都女子大学学長・土川眞夫/京都光華女子大学学長・三村晃功/大阪樟蔭女子大学学長・森眞太郎/大谷女子大学学長・草場宗春/神戸女子大学学長・森本武利/神戸親和女子大学学長・山根耕平/神戸松蔭女子学院大学学長・後藤博一/神戸海星女子学院大学学長・山内祥史/神戸女学院大学学長・原田園子/園田学園女子大学学長理事長・一谷宣宏/武庫川女学院大学学長・大河原量/平安女学院大学学長・高田宏/ノートルダム清心女子大学学長・高木孝子/広島女学院大学学長・今田寛/安田女子大学学長・吉野昌昭/広島文教女子大学学長・角重始/松山東雲女子大学学長・別府恵子/九州女子大学学長・箴島豊/福岡女学院大学学長・齊藤皓彦/筑紫学園大学学長・高石史人/活水女子大学学長・野々村昇/鹿児島純心女子大学学長・稲井道子/女子美術大学学長・立石雅夫/日本女子体育大学学長・加賀谷淳子/東京女子体育大学学長・塩野克己/